

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：15201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520224

研究課題名(和文) 歴史物語の享受と継承の研究 古代・中世・近世歴史物語全作品の文学史的再編成

研究課題名(英文) A Study into Acceptance and Inheritance in Historical Tales - A Literary Historic Reorganisation of the complete tales from the Ancient, Middle age and Modern Periods.

研究代表者

福田 景道 (Fukuda, Akimichi)

島根大学・教育学部・教授

研究者番号：20181266

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円、(間接経費) 570,000円

研究成果の概要(和文)：歴史物語の主要作品を『栄花物語』や四鏡とする通識に根拠はないので、「物語体で表現される通史的歴史叙述」と広義に捉え直し、主題・構想・歴史観・継承関係・享受史に留意して次のように4分類し、歴史物語全史を再編成した。

世継三作(王朝歴史物語)：『栄花物語』『大鏡』『今鏡』，〔散逸『弥世継』〕 中世歴史物語1：『水鏡』『秋津島物語』『六代勝事記』『五代帝王物語』，類縁作品『無名草子』『唐鏡』など，〔散逸推定『続代系記』〕  
中世歴史物語2：『梅松論』『保暦間記』『神明鏡』『神皇正統録』，類縁作品『源威集』。 増鏡系歴史物語：『増鏡』『池の藻屑』『月のゆくへ』，〔散逸推定『弥増鏡』『続増鏡』〕

研究成果の概要(英文)：Although not based upon a interpretation of major historical works such as the "Eiga Monogatari" or the Shikyo, the complete opus of historical epics was reorganised with regard in a wider sense to "the narrative as historical overview shown through the body of the text". They were sorted into the following 4 categories, taking note of the theme, plot, historical viewpoint, and inheritance relationships.

1) The three Yotsugi (Dynastic Historical Tales) : "Eiga-Monogatari", "O-kagami", "Imakagami", lost "Iya-Yotsugi". 2) Historical Tales of the Middle Ages 1 : "Mizukagami", "Akitsushima-Monogatari", "Rokudaishojiki", "Godaiteiou-Monogatari" assumed lost "Zokudaikeiki", the related works of "Mumyozoshi", "Karakagami", etc. . . 3) Historical Tales of the Middle Ages 2 : "Baishoron", "Houryakukanki", "Shinmeikagami", "Jinnoshotoroku" the related works of the "Gen-i-shu". 4) Masukagami Lineage Historical Tales : "Masukagami", "Ikenomokuzu", "Tsukinoyukue", assumed lost "Iya Masukagami", etc. . .

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：歴史物語 皇位継承 世継 歴史叙述 王朝 中世

### 1. 研究開始当初の背景

『栄花物語』や『大鏡』に代表される歴史物語作品群は、古代から近世にかけて、数多く著作され、享受されてきた。これらは、歴史書としてはあまりにも文学的であり、文学作品としては歴史的すぎるため、どちらとして観ても不十分な点が目立ち、高く評価されることは稀であった。近代初期には主として平易な歴史書として活用され、現在は物語文学の亜種として物語文学の研究方法を借用して追究されているのが実情である。この実情を克服するために、まず歴史物語は史書と物語の中間に位置するという通念、『栄花物語』と四鏡の5作品を中心に固定的に歴史物語を把握する通識に捕らわれず、歴史物語を「物語体で表現される通史的歴史叙述」と広義に捉え直すところから本研究は始動する。

### 2. 研究の目的

歴史物語は、古代から近世までの長期間にわたって成立し、幅広く享受されてきた。しかし、それぞれの作品の質的差異が大きく、その本質が明らかにされたとは言えない。また、古代から近世までの長期間にわたって成立したため、各時代ごとに研究され、歴史物語全作品が統括的に究明されることはほとんどなく、時代を超えて各作品の相互関係や独自性が一括して解明されたことは絶無に近い。そこで、本研究では、歴史物語諸作品を、継承と享受の実際を解明することによって各作品の連続性・相補性を明らかにし(1)、それによって「歴史物語」全体の本質を追究し(2)、さらに古代・中世・近世を統合する新しい歴史物語史を構想する(3)ことを目的とする。

### 3. 研究の方法

- (1) 基礎的研究：初年度を中心に、歴史物語の本質、時代背景について総括し、本研究推進の基盤を整える。
- (2) 個別作品研究：本研究の課題に即して歴史物語各作品を追究する。特に、歴史物語史形成の鍵となりながら研究史の蓄積の少ない『梅松論』『月のゆくへ』等に注目する。
- (3) 対比的研究：(1)・(2)の成果に基づいて、歴史物語諸作品の連続性、関係性を明らかにする。
- (4) 史的研究：(1)～(3)の成果を踏まえて、歴史物語史を再編成する。

### 4. 研究成果

(1)【基底的研究】歴史物語は、『栄花物語』と四鏡(『大鏡』『今鏡』『水鏡』『増鏡』)の5作品、またはそれに『秋津島物語』『池の藻屑』『月のゆくへ』を加えた8作品を中心に捉えられている。しかし、その選択の根拠は連続して享受すると神代以降の日本通史を形成する点にしかないため、諸作品間の異

質性が著しく、『五代帝王物語』や『梅松論』のように近似作品の存在により、ジャンルとしての有効性が認められない。

現行の歴史物語五作品観や八作品観は、『増鏡』序文の歴史物語史総括記事を遠因とし、芳賀矢一「歴史物語」(『芳賀矢一遺著』富山房、昭和2年刊)を近因として発生し、通識化に至ったものと思われる。それぞれに一定の史的意義は認められるが、現在ではほとんどの有効性を失っている。

そこで、本研究では歴史物語を「物語体で表現される通史的歴史叙述」とゆるやかに定義して、通識に繫縛されない歴史物語観を以て、歴史物語史を照射する。その際に、これまでの研究で得られた知見を活用し、作品の支柱部分に皇位継承史(「世継」)を内在させることを条件として、作品を選別した。

対象とする具体的作品名を以下に示す(仮設的に分類した)。

- ・真正歴史物語：『栄花物語』(正編・続編)、『大鏡』、『今鏡』、『水鏡』、『秋津島物語』、『六代勝事記』、『五代帝王物語』、『増鏡』、『保暦間記』、『梅松論』、『神明鏡』、『神皇正統録』、『池の藻屑』、『月のゆくへ』。
- ・準歴史物語：『唐鏡』、『源威集』
- ・類縁作品：『宝物集』、『無名草子』、『世継物語』。
- ・周縁作品群：『愚管抄』、『神皇正統記』、『保元物語』、『平治物語』、『平家物語』、『承久記』、『太平記』、『曾我物語』、『松蔭日記』、『海人の刈藻』、『苔の衣』、『我身にたどる姫君』、他。
- ・散逸作品：『弥世継』、『弥増鏡』。
- ・散逸推定作品：『続代系記』、『続増鏡』。

### (2)【個別的研究】

本研究で定義した歴史物語作品のうち、研究推進の必要上、『梅松論』・『月のゆくへ』・『池の藻屑』の皇位継承史構想(「世継」としての性格)の所在を確認し、それに付随する諸特性を解明した。また、「世継三作」の鼎立関係、散逸『弥世継』の位置づけも行った。主な成果を以下に略記する。

『梅松論』の古本2系統、すなわち、文芸性と独創的テーマをもつ京大本と、歴史性と啓蒙的教育的主想を内包する天理本との方向性の相違に歴史物語史の中世的展開が象徴される。

また、『梅松論』下巻には、「源家の歴史物語」としての構図が認められ、『源威集』や『神明鏡』とともに歴史物語の亜種と見なすことも可能である。『源起記』(片仮名本『増鏡』)をこれに加えてもよいかもしい。

『月のゆくへ』・『池の藻屑』(荒木田麗女作)には、先行の歴史物語諸作品に比して、枠物語構造、皇位継承史構想、中枢の歴史構想、文芸的統一性等の点での不完全さが指摘できる。歴史物語の範疇には加えられても高い評価には至らないと言わざるを得ない。しかし、『増鏡』の歴史物語観を踏襲する作品

と見なして、「増鏡系歴史物語」「擬古的歴史物語」の存在を仮定すると、純正な歴史物語と認められる。

「世継三作」(『栄花物語』『大鏡』『今鏡』)は、それぞれに独自の個性をもち、文芸性と歴史性の双方において歴史物語の要諦をなすが、同時に三者が相互に補完して王朝的な歴史世界を完成させている。「先坊(=前坊)」とは、即位に至らなかった東宮のみに与えられる呼称で、歴史物語の機軸を形成する皇位継承過程の岐路として機能する。『大鏡』以下の歴史物語に頻出する「先坊」によって歴史物語史の展開が素描できる。

散逸歴史物語『弥世継』は通常言われるような短編ではなく、『今鏡』と『増鏡』の僅かな間隙を埋めるだけの小品でもないと思われる。第四の「世継(物語)」として最新の本格的歴史物語として、後続作品の動向をも左右し、世継三作から中世歴史物語への移行を体現していた可能性もある。

(3)【時期区分】成立時期によって歴史物語史を6時期に区分した。大要は以下のとおり。

- 第1期：王朝期歴史物語A；『栄花物語』正編  
第2期：王朝期歴史物語B；『大鏡』・『栄花物語』続編群  
第3期：王朝期歴史物語C；『今鏡』  
第4期：中世前期歴史物語；『水鏡』・『秋津島物語』・『六代勝事記』・『五代帝王物語』・『唐鏡』・他。(『愚管抄』, 軍記文学生成)  
第5期：中世後期歴史物語；『増鏡』・『梅松論』・『保曆間記』・『神明鏡』・『神皇正統録』・他。(『神皇正統記』, 軍記文学形成)  
第6期：近世期歴史物語；『池の藻屑』『月のゆくへ』(「十語五草」流行)

(4)【結論】内実(主題・構想・歴史観)、成立時期、享受史、継承関係等から、全歴史物語を「世継三作」・「中世歴史物語」・「増鏡系歴史物語」に3分類し、中世歴史物語をさらに2分し、歴史物語全史を再編成した。その大要を以下に示す。なお、〔 〕内に散逸作品や散逸推定作品も付記した。

- A 世継三作：王朝風歴史物語 『栄花物語』(正・続編)・『大鏡』・『今鏡』。〔散逸『弥世継』〕  
B 中世歴史物語1：啓蒙的歴史物語 『水鏡』・『秋津島物語』・『六代勝事記』・『五代帝王物語』。類縁作品『無名草子』・『唐鏡』。〔散逸推定『続代系記』〕  
C 中世歴史物語2：教訓的歴史物語 『梅松論』・『保曆間記』・『神明鏡』・『神皇正統録』・『源威集』(類縁作品)。  
D 増鏡系歴史物語：擬古的歴史物語 『増鏡』・『池の藻屑』・『月のゆくへ』。〔散逸『弥増鏡』。散逸推定『続増鏡』〕  
なお、中世歴史物語2の中の『神明鏡』・『梅

松論』下巻・『源威集』等を「源家歴史物語」として独立させることもできる。

Aは、詳細で王朝的色彩を基調とし、後継の歴史物語の規範となる点で一括できる。また、3作品が相互に補完することにより、独自の歴史観(主題)に基づく統一的歴史叙述を形成し、統一的な文芸世界を発現しているとも言える。Bは古代から中世への変革期に対応して著作された漢文訓読文体を基本とする簡素な作品群である。公家社会の外でも享受され、初学者の教育が著作の目的に加えられるようになる。Cは南北朝の動乱期を中心に成立した作品群であり、簡潔な漢文訓読文体が多い点ではBに等しいが、客観的記述によって教訓的役割を果たす傾向が見られる。Dは『増鏡』が構築した歴史物語史流れに従う作品群である。『増鏡』の特色である擬古物語性や仮想世界志向性においても共通する。また、近世になって持続性と連続性に大きな価値が認められるようになり、歴史物語によって通史が完成するという一事実が歴史物語の存在を不動のものにしたと考えられる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 3件)

1. 福田景道, 「『池の藻屑』研究序説 歴史物語の系列化と枠物語構想」, 『島大国文』, 査読なし, 第34号, 2014年1月, 15-27頁
2. 福田景道, 「近世歴史物語としての『月のゆくへ』 宮廷貴族の補任記事をめぐる」, 『国語教育論叢』, 査読なし, 第21号, 2012年, 217-229頁
3. 福田景道, 「散佚歴史物語『弥世継』の研究」, 『島根大学教育学部紀要』, 査読なし, 第45巻, 2011年, 102-112頁

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 2件)

1. 加藤静子・桜井宏徳編, 新典社, 『王朝歴史物語史の構想と展望』, 2014年刊行予定, 第1章第2節「歴史物語の基軸としての『世継三作』『先坊』の設定とその継承をめぐる」(福田景道)を執筆
2. 国文学研究資料館編, 笠間書院, 『古典籍研究ガイド 王朝文学をよむために』, 2012年, 198-208頁(福田景道「幻の『弥世継』をさがす 世継物語(歴史物語)の継続と変転」)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

福田 景道 (FUKUDA AKIMICHI)  
島根大学・教育学部・教授  
研究者番号：20181266

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：